

昭和医科大学 国際交流センター NEWSLETTER

vol.05 2026年6月

2026年度のごあいさつ

梅雨の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。2026年度最初のニュースレターを発刊するにあたりご挨拶申し上げます。

多様性を尊重し、国際的な視野で世界に貢献できる医療人の育成と、国際的な学术交流のため、国際交流センターは、海外協定校との連携強化、留学生支援の充実、そして本学学生・教職員の国際的な活躍を後押しすべく、引き続き諸活動に取り組んでまいります。2026年度も、国際交流のさらなる推進と本学のグローバル化に向けて、センター一丸となって尽力する所存でございます。皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



新入生オリエンテーション開催！

富士吉田キャンパスにて全学部新入生を対象に工藤芳子副センター長による国際交流プログラムのオリエンテーションを開催しました。本学が目指す「国際的な視野を持つ医療人の育成」のために用意されている多くの海外プログラムを、学部×学年の枠組みに沿って紹介しました。グループ研修、個人で行う海外臨床実習など、学年が上がるごとに高度な研修が展開されているため要求される能力も上がることを説明しました。

講演後には学生から多くの質問を受け、学生それぞれが期待している海外への取り組みが異なることも理解できました。

同日に開催された1年夏季英国オックスフォード大学研修の説明会には、110名の学生が自主的に参加し、国際プログラムに対する関心の高さを再認識しました。学生には世界に広がる可能性を持っていることを自覚し、高みを目指して進んでほしいと願います



研修報告 3月 第2回 国際交流センター主催 カンボジアスタディツアー

他国と日本の医療制度を比較して学ぶことを目的として3月22～29日に、2回目となる国際交流センターオリジナル留学プログラム「カンボジアスタディツアー」を行いました。医学部、薬学部、保健医療学部、富士吉田教育部、看護専門学校から1～4年生9名が参加し、カンボジアのパートナー校であるプシサストラ大学3名の学生と共に研修しました。

昨年と同様にJICAカンボジア事務所を訪問し、現地でハーブティーのNGO会社を立ち上げた日本人の方から活動に関するご講演をいただきました。また、JICAボランティアの方が指導を行なっている小学校でプシサストラ大学学生と一緒に子供たちに対して手洗いと歯磨きの衛生教育を行いました。さらにシェムリアップ州では子供病院を訪問し、病院が子供たちに対してどのように治療を提供し家族を支援しているのか、さらには費用を手頃に維持しようとする仕組みについて学びました。フィールドトリップでは世界遺産アンコールワットも見学しました。



大学院留学生ウェルカムパーティーを開催

5月26日、上條記念館において、国際交流センター主催の「大学院留学生ウェルカムパーティー」を開催しました。本パーティーは、本学で研修・研究を行う大学院留学生を歓迎するとともに、大学関係者や各国大使館との交流を深めることを目的として毎年開催しています。今年度は、ルーマニア、モンゴル、ベトナム、中国、マダガスカルの5か国から7名の大学院留学生を迎えました。当日は、駐日ルーマニア大使館のラエツキ特命全権大使およびジェアヴェラ公使参事官、駐日モンゴル国大使館のデルゲルマー公使参事官、ツェヴェグドルジ文化・教育・スポーツ・儀典担当官、駐日ベトナム社会主義共和国大使館のフオン教育部長を来賓としてお迎えしました。



ウェルカムパーティーには総勢70名以上が参加



上條学長とルーマニア大使



ベトナムからの大学院留学生

パーティーでは、上條由美学長による歓迎の挨拶に続き、各国大使館関係者から留学生への激励の言葉が贈られました。その後、宮崎隆国際交流センター長の乾杯を合図に歓談が始まり、大学院留学生は英語や日本語を交えながら自己紹介や研究・研修への抱負を語りました。会場では、大使館関係者、本学教育職員、学部留学生らが専門分野や各国の文化などについて交流し、終始和やかな雰囲気の中で親睦を深めました。本学では、世界各国から優秀な留学生を積極的に受け入れ、教育・研究活動を通じた国際交流を推進しています。7名の大学院留学生は、それぞれの講座・診療科で研修・研究に励み、本学で得た経験を今後の医療・学術交流へと生かすことが期待されます。

ルーマニア バベシュ・ボヨイ大学学長が上條由美学長を表敬訪問



5月11日、ルーマニアのバベシュ・ボヨイ大学（Babeş-Bolyai University）より、ダニエル・ダヴィド学長と臨床心理学・心理療法学科のオアナ・アレクサンドラ・デヴィッド教授が昭和医科大学を訪問しました。本学からは上條由美学長、土屋静馬教授（国際交流センター）が出席し、両大学の教育・研究や国際交流について意見交換を行いました。バベシュ・ボヨイ大学はルーマニア最大規模の総合大学であり、近年は医療・健康科学分野の新学部設置を進めるなど、学際的な教育・研究を推進しています。

面談では、双方の教育・研究の特色を紹介するとともに、学生・教員交流や共同研究を含めた将来的な連携の可能性について幅広く協議しました。今回の訪問で、昭和医科大学とルーマニアとの学術交流をさらに発展させる新たな契機となることが期待されます。

ポートランド州立大学（米国）との連携を深めるランチョンミーティングを開催

5月13日、ポートランド州立大学Office of Global Engagement & InnovationプログラムマネージャーのMs. Karin Tittelbachと、日本代表の浦谷秀男氏が昭和医科大学を訪問しました。本学からは国際交流センター教員が出席し、8月に実施予定の夏期研修プログラムの運営や学生支援体制について打ち合わせを行うとともに、ランチョンミーティングを開催しました。本プログラムは2006年の開始以来、多くの本学学生が参加し、語学力の向上に加え、異文化理解や国際的視野を広げる貴重な機会として継続されています。当日は、これまでの実績や参加学生の意見を踏まえ、内容の充実や学生満足度の向上に向けて意見交換を行いました。今後も両大学が連携を深め、より魅力ある国際交流プログラムを推進していきます。



ワライラック大学（タイ）保健医療学部と看護学部の学生研修を実施しました

本学保健医療学部とワライラック大学との交流も5年目となり、準備段階から両校で細かく調整を行い、4・5月に3つの独立した研修を行うことができました。

1. 病院臨床検査科見学と日本医療に関する学習 半日
対象：保健医療学部臨床検査学科 学生26名と教員11名
日本の医療システムに関する講義の後、病理、生理、超音波、輸血、生化学・免疫、採血の検査室を見学しました。多忙な大学病院で上手に運営されている臨床検査の現場から学生のみならず先生方も多くのことを学びました。
2. Global Nursing and Physical Therapy Professional and Cultural Camp 1週間
対象：看護学部学生6名と教員2名、
保健医療学部理学療法学科学生11名と教員3名
横浜キャンパスでのスキルスラボ演習、医学部生理学講座によるタイ語を交えた東洋医学の講義と演習、理学療法学科、看護学科に分かれて藤が丘病院の見学、ユニメディコ様のご協力で老人福祉施設の見学、富士吉田キャンパスでの学生交流など盛りだくさんのスケジュールから大いに学び本学学生との交流を楽しみました。
3. 藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーションセンター見学 1週間
対象：保健医療学部理学療法学科学生2名と教員2名
PT、OT、STの役割説明、PT・OT見学、痙縮外来、心臓リハビリテーション外来、嚥下に係る検査、装具クリニック、NSTラウンド見学などを通じ、多職種によるチーム医療を学び、タイとは異なる臨床の現場から将来のタイでのリハビリテーションに対するアイデアを受け取りました。



超音波検査のデモを体験



横浜Cにて学生によるタイダンス披露



富士吉田Cにてオリガミで学生交流



修了証書を受け取り記念撮影

この8月には夏休みを利用して、本学保健医療学部学生14名がワライラック大学に赴き、タイの文化に根付いた保健医療と大学生活を体験する研修を行うことを楽しみにしています。

日本語授業

2014年より、危機管理の一環として留学生向けにサバイバルレベルの日本語教室を実施しています。今回は大学院留学生6名（中国、モンゴル、ベトナム、マダガスカル、ルーマニア）に加え、薬学部の学部留学生（タイ、アメリカ）4名も参加し、和気あいあいとした授業となりました。

国際交流センターでは、留学生が安心して日本での生活や研修に取り組めるよう、今後も支援を続けてまいります。



韓国 ソウル視察

3月30、31日に、アジア地域における新たな海外臨床実習先の可能性を検討するため、韓国視察を行いました。

まず、医学部臨床実習での交流再開を予定している大学間協定校の慶熙大学校を訪問しました。訪問では、医学部関係者への挨拶を行うとともに、新たな担当者同士による臨床実習の受入条件等について確認を行い、今後の交流再開に向けて有意義な協議を行うことができました。また、大学施設および学生寮の見学を行い、本学学生が現地で生活・学修する環境について理解を深めることができました。



St. Mary病院長 Ji-Youl Lee 教授（中）

次に、韓国カトリック大学校医学部およびSt. Mary病院を訪問しました。訪問では、将来的な医学部間協定の締結も視野に入れながら、教育・研究交流および臨床実習に関する可能性について意見交換を行いました。なお、本学の深貝隆志特任教授のご尽力により、医学部間協定の締結に向けた協議は順調に進展しており、近い将来の協定締結が期待されます。

チュラロンコン大学（タイ）との 歯学部間協定更新

2017年、昭和医科大学歯学部はタイのチュラロンコン大学と学部間協定を締結しました。今年5月29日、馬場一美歯学部長らがチュラロンコン大学を訪れ、Pornchai Jansisyanont 歯学部長と学部間協定更新のための調印式を執り行いました。今後、学生および教育職員の相互交流を、より一層活発に進めてまいります。



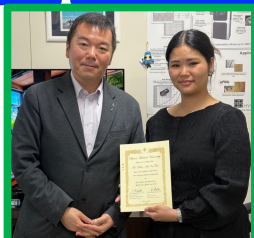
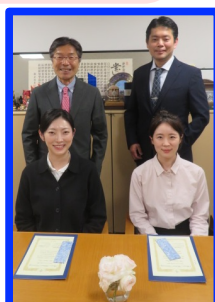
2025年度 学部学生 海外研修 報告

学部学生のため協定校での臨床実習の他、様々な研修プログラムを準備しています。2025年度は95名の学生が海外での経験を積みました。今後も学生の多様な学びと成長を支えてまいります。

	医学部	歯学部	薬学部	保健医療学部	看護専門学校	計（名）
海外選抜実習・研修	6年 12名 5年 15名	6年 15名	5年 8名			50
初年次スタディアブロードプログラム オックスフォード大学ハートフォードカレッジ夏季研修（イギリス）	1年 6名	1年 5名	1年 5名	1年 1名		17
カンボジアスタディツアー（カンボジア）	1年 3名		2年 1名	3年 1名 2年 1名	1年 1名	9
アドバンススタディアブロードプログラム フライラック大学夏季研修（タイ）				4年 1名 3年 3名 2年 4名		8
ポートランド州立大学サマープログラム2025（アメリカ）			5年 1名	4年 2名 3年 3名	2年 1名	7
BRIDGEプログラム（Building Relationships for International Development, Growth, and Exchange: タイ）		4年 3名 3年 1名				4
計（名）	36	24	15	18	2	95名

学部留学生受け入れ報告 4～6月

ご指導・ご協力ありがとうございました。



学部	学生受け入れ部署	在籍機関(国・地域)	人数	受入れ期間
医学部	昭和医科大学病院・藤が丘病院 リハビリテーション病院・江東豊洲病院 リハビリテーション医学	慶熙大学 (韓国)	2名	2026年4月27日～ 2026年5月15日
	昭和医科大学病院 整形外科	台北医学大学 (台湾)	1名	2026年5月18日～ 2026年6月12日
	昭和医科大学病院 消化器一般外科	フィリピン大学 (フィリピン)	1名	2026年6月22日～ 2026年7月17日
	昭和医科大学病院 心臓血管外科	台北医学大学 (台湾)	1名	2026年5月25日～ 2026年6月19日
	昭和医科大学病院 腫瘍内科学	フィリピン大学 (フィリピン)	2名	2026年6月22日～ 2026年7月17日
	昭和医科大学病院 消化器一般外科(腎移植センター)	コロンビア大学 (米国)	1名	2026年6月14日～ 2026年6月15日
歯学部	歯学部交換留学	ウィーン医科大学 (オーストリア)	1名	2026年4月06日～ 2026年4月24日
	歯学部交換留学	チュラロンコン大学 (タイ)	4名	2026年5月25日～ 2026年5月29日
薬学部	薬学部交換留学	マハサラカム大学 (タイ)	2名	2026年5月11日～ 2026年6月19日
	薬学部交換留学	オルバーニー薬科大学 (米国)	2名	2026年5月18日～ 2026年6月26日
保健医療学部	保健医療学部交換留学	フライラック大学 (タイ)	15名	2026年5月10日～ 2026年5月19日
	保健医療学部交換留学	フライラック大学 (タイ)	2名	2026年5月10日～ 2026年5月23日

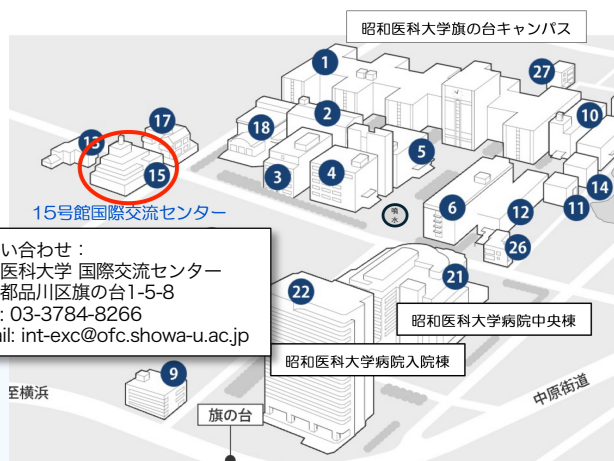
編集後記

🌿 ニュースレターも2年目に入りました。始めた頃は手探りでしたが、今では国際交流センターの活動を振り返る大切な機会となっています。これからも、皆さまに活動をお伝えするため、丁寧に作り続けてまいります。

今後とも国際交流活動へのご協力をお願いいたします。



(古田厚子)



お問い合わせ：
昭和医科大学 国際交流センター
東京都品川区旗の台1-5-8
電話: 03-3784-8266
Email: int-exc@ofc.showa-u.ac.jp

至横浜

旗の台

昭和医科大学病院中央棟

昭和医科大学病院入院棟

中原街道